

【 議 事 録 】(概要)

実施日時 令和2年8月4日(火) 18:30～20:30

会議名	越谷市総合振興計画審議会 福祉・健康部会 第1回会議	会場	越谷市役所本庁舎5階 第1委員会室
件名/議題	【越谷市総合振興計画審議会福祉・健康部会第1回会議】 1 開会 2 議事 (1) 第5次越谷市総合振興計画基本計画(素案)について 3 その他 4 閉会	資料:(<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)	
出席者	<委員>(7人) [1号委員] 杉本昭彦委員、近澤恵美子委員、中村昌弘委員、出村常子委員、間藤大輔委員 [2号委員] 深井晃委員、白井俊市委員 <事務局>(3人) 市長公室政策課:濱野副課長、星主任 策定業務支援者:ランドブレイン株式会社(1人) <職員>(15人) 関福祉推進課長、鈴木生活福祉課長、福岡障害福祉課長、 久保田地域包括ケア推進課長、加藤介護保険課長、永瀬子育て支援課長、 野口子ども育成課長、藤城青少年課長、野口地域医療課長、櫻田市民健康課長、 小川国民健康保険課長、渡邊保健総務課長、小野精神保健支援室長、 鈴木生活衛生課長、早山市立病院庶務課長 <傍聴者>(0人)		
欠席者	<委員>(1人) [4号委員] 國澤尚子委員		

越谷市総合振興計画審議会 福祉・健康部会 第1回会議 会議録概要

<越谷市総合振興計画審議会 福祉・健康部会 第1回会議>

1 開会

政策課星主任の司会により越谷市総合振興計画審議会福祉・健康部会 第1回会議を開会。
第5次越谷市総合振興計画基本構想（素案）答申について、事務局から報告。
深井部会長よりあいさつ。

2 議事

・傍聴者の確認（傍聴者無し）

(1) 第5次越谷市総合振興計画基前期基本計画（素案）について

- ・事務局から、分野別計画・大綱2について説明を行った。
- ・部会長より、審議の進め方について、大項目ごとに進める旨委員に確認し了承を得た。

1) 大項目2-1について

(部会長) 大項目2-1について、何かご意見・ご質問等がございましたらお願いします。

(委員) P35めざす姿の3行目に「行政による福祉サービスの充実と、住民相互の助け合い、支え合い活動の促進を両輪として…」とあります。その通りですが、片輪を担う住民側の意識は変わりつつあります。現状の3つ目に「新たな担い手になり得る可能性がある市民が……いまだ地域福祉活動への参加に至っていない傾向が見られます」とある通り、なかなか行動が伴わない市民が多いということは、あらゆる地域活動に共通する現状です。そのことが、P36の課題にある「地域福祉アンケート」でも「意識の低さ」として出ている訳です。P37の2行目に「行政による福祉サービスのさらなる充実と、住民相互の助け合い、支え合い活動の促進を両輪とした地域共生社会の実現に向け、地域住民がさまざまな課題を自分たちで把握し、解決の糸口を見つける力を養うとともに」とありますが、住民を動かすにはやはり行政側からの働きかけが不可欠だと思います。

(委員) 市民活動を行う中でも担い手がいないことを実感していますが、福祉推進員の担い手の状況はどうなっていますか。また、5年後、10年後を見据えた課題などはありますか。

(福祉推進課長) 福祉推進員を養成している社会福祉協議会からは、毎年養成者が増えていると報告を受けています。累計の養成者数は令和元年度が670人で、その前年度の598人よりも増加しています。両輪ということで、地域福祉の中心を担う社会福祉協議会と連携しながら、住民側の活動を後押ししていく取組を行政として考えていきたいと思っています。

(委員) P37「地区版福祉SOSゲーム」の取組状況はいかがですか。

(福祉推進課長) 「地区版福祉SOSゲーム」は、地域の皆さんなどに地域福祉資源をご理解いただくためのもので、地域の福祉施設や事業所などを落とし込んだ地図と、「認知症で困っています」「ひとり暮らしで困っています」など、いろいろな困難事例を書いたカードを用意して、地図上のどの社会資源につなげれば良いか疑似体験をしていくものです。越谷市では昨年度から取組を開始し、各地区の民生委員を中心にカードの作成を行っています。すでに、大相模地区では地域のネットワーク会議で取り組んでいます。現在は素材の作成中ですが、準備ができ次第、地域の皆さんに広くご参加頂きたいと考えています。

(委員) 私は自治会に携わっておりますが、地域にひとり暮らしの高齢者が増えていて、皆さ

ん自治会を辞めたいと言われます。ですが、そうした方こそ隣近所の見守りが必要であり、自治会に入っているべきだとお伝えしています。若い人は自治会費を振込にしたいなどと言いますが、あえて班長が集金に回るといふ地域のつながりが大事です。身体が不自由な方など、月1回の訪問を待っている方も多いです。地域福祉では、福祉に携わる人と自治会との連携が大切になると思います。

(委員) 今は民生委員・児童委員との情報交換の場がなく、連携がありません。そこに自治会単位の小さなつながりを上手く利用できれば、状況を改善できます。「SOSゲームの研修会」はとても良いので、それを自治会で民生委員・児童委員を交えて実施できれば、1つの連携につながると思います。

NPOをやっていると、小さな声が届いていないと感じます。例えば近所で認知症の人が発生した場合、家族はどうしてよいかわからない、認知症かどうかもわからないということがあります。何人か地域包括支援センターへつなぎましたが、自治会単位で把握していかないと大きな所では難しい。個人情報取り扱いが難しいという委員もいますが、見守りと支え合いのある地域をつくるためには、自治会と民生委員・児童委員が小規模な連携をより深めてつないでいくことが大事だと思います。

(委員) 自分が自治会長だったとき、行政から民生委員の推薦を依頼されましたが、確かに民生委員からの情報は自治会に入ってきてませんでした。個人情報の問題があるとしても、民生委員の活動は少なくとも自治会に入れて自治会内で共有することが非常に大事だと思います。

(部会長) 以上のご意見でよろしければ、次の項目に移りたいと思います。

2) 大項目 2-2 について

(部会長) それでは、2-2「予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる」について、質疑をお願いいたします。

(委員) P40健康寿命の延伸目標を約0.6年とした根拠を教えてください。前回計画からの踏襲でしょうか、それとも、0.6歳延びると介護保険料の負担軽減が図れるなどの理由でしょうか。

(市民健康課長) 国は「健康寿命を25年間で3歳伸ばそう」という指針を示しています。それを計画の5年間で割り返すと0.6歳になります。越谷市の健康寿命の延伸年数は、直近5年間の平均で女性が0.106年、男性は0.138年となっています。こちらは、国の示した目標値を上回る結果です。現状を維持しながら図っていきたいとの考え方から、目標値を男性18.48年、女性21.04年と設定しています。

(委員) 国の目標値はそうだけれど、越谷市の目標値は越谷市のデータに基づいて設定しているということですね。ありがとうございます。

(委員) 今はコロナの影響で外出しない、動かないという人が増えています。しかし、特に高齢者にとっては「動く」「考える」ということが重要だと実感しています。そのため啓発に取り組んで下さい。地域包括支援センターや老人福祉センターは、あっても行けない、遠いという声をよく聞きます。施設を有効活用するためには、交通の便が必要です。市内を循環するバスがあれば、利用者が増えると思います。最近では地域でラジオ体操をやらなくなりました。体力はどんどん落ちるので、身近で動くことを大事にしてほしい。災害時なども、高齢者には無理だと線引きせず、動いてもらう方法を是非考えて、啓発として計画に位置づけてほしいと思います。

(委員) 大相模地区と川柳地区は、川柳地区にある地域包括支援センターの管轄ですが、地域を縦断する交通網がないので、地域包括支援センターへはほとんど行かないという人が多いです。いずれ大相模地区にも地域包括支援センターができるそうですが、エリア分けは行政の都合ですので、推進にあたっては交通網についても計画全体の中に組

み込んでいただきたいと思います。

ほかにご意見がなければ、次の項目へ移ります。

- (委員) これは医師会が市と協力すべきことですが、医師会では、がん検診の受診率を上げるための工夫をしていきたいと考えています。市とは毎年、周知方法などの検討を重ねていますが、なかなか成果が上がりません。医師会も頑張りますが、皆様にも是非ご協力いただきたいと思います。

3) 大項目 2-3 について

- (部会長) 大項目 2-3 「子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる」について、質疑をお願いいたします。

- (委員) P44の達成指標「子育てサロン平均利用回数」について、子育てサロンを実施している側としては違和感があります。今は働く母親が急増していて、子どもは1歳から2歳前半で保育園に入り、サロンへの参加は土日が中心で、平日の増加はほとんど見込めません。利用回数を増やすことより、内容が大事だと思います。初めて子育てに取り組む母親の不安に寄り添うために「赤ちゃんの日」を設けるなど、どこの子育てサロンでも工夫をしています。そういう実状と、3歳以下の利用回数を増やすという目標は、噛み合っていないと感じます。

- (子育て支援課長) 働く母親の増加についてはご指摘の通りです。さらに人口動態として、サロンの対象になる就学前年齢の人口は減少する見込みとなっています。それらを踏まえて数値目標として掲げたものが、3歳以下の子どもの利用回数ということになります。P45にも「子育てサロンの講座開設数」という指標があります。こちらは、子育ての不安を抱えている方などが交流できる場を地域にできるだけつくって頂きたいという気持ちを込めて設定したものです。こうした取り組みを併せて、内容も含めた支援の充実を図っていきたいと考えております。

- (委員) P45「子育てサロンの講座開設数」についても、現状215回に対し目標が「200回以上」というのは後ろ向きに感じます。もう少し上を向けるような目標値にできませんか。

- (子育て支援課長) より多く開催して頂きたい気持ちはありますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、講座の開催方法に条件が増えているのも事実です。オンライン開催などもすでに取り組まれておりますが、今後については、社会様式の変化等も踏まえてこちらの目標値にさせて頂いております。

- (委員) 子育てサロンを開催する側としては、ほんの少しでも現状を上回る数値を掲げて頂いた方が、そこを目指して頑張れると思うのですが。

- (子育て支援課長) 目標値については「200回以上」ということで、今後、子育てサロンの関係者の皆様に計画の趣旨等を説明して、ご理解をいただきたいと思います。

- (委員) 「子育てサロン平均利用回数」の説明文がわかりにくいので説明して下さい。「総利用回数に占める3歳以下の子どもの回数について、5.4回とする」とはどういう意味ですか。回数というのが月間なのか年間なのか、一人当たりなのかもわかりません。

- (子育て支援課長) 就学前の子どもの人口動態と比較して検証するため、目標値についても人口動態と同じく年度刻みで設定しております。この指標にある平均利用回数とは、3歳以下の人口を、利用延べ人数で割ることにより算出した数値のことです。

- (委員) そもそも説明が難しい指標だということはわかりました。その下の「保育所(園)の待機児童数」の説明文のように、誰が読んでも納得できるような表現にした方が良いと思います。さらなるご説明は結構です。

- (委員) P45、231や232について、学齢期の子どもたちの居場所の充実が必要です。学童保育室や放課後子ども教室などに入れられない子どもたちが大勢います。子どもが気軽に悩みを話せて、友達と交流できる場所が必要です。親たちも行き場をなくしています。コ

コロナの自粛生活でも悩みを抱える親がたくさんいます。子育てサロンのような場所が学齢期にも必要です。学齢期の子どもたちが自由に遊べる場所がありません。地区センターは、高齢者や大人専用ではないということも啓発して頂きたい。児童館が無理なら1室でも良いので、子どもたちとその親がいつでも行って話せる居場所をつくって下さい。公的な相談場所よりも敷居が低く、気軽に通える場所が必要です。

さらに居場所がない中高生のためには、ゲームセンターや繁華街へ出なくて済むよう、施設の夜間開放をお願いします。児童館を夜間解放している自治体もあります。市の職員が無理なら、子育て支援団体に運営を委ねる選択肢も含めて検討して下さい。是非お願いします。

(委員) 越谷市は、乳幼児支援はあっても小中高生への支援が足りません。児童館は大きいけれども2つだけなので、近所の子ども以外は利用できません。都内では小さな児童館がたくさん充実しています。仙台市では中高生が自ら児童館の活動を牽引しています。公民館が良いかはわかりませんが、もう少し身近な場所に居場所を設けて、小中高生がコンビニ前でたむろしたり、公園で球技をして怒られたりして隅でゲームをするだけというような状況がなくなるような視点を、今後10年の計画に位置づけて下さい。P45の232「自ら学び遊ぶ場づくり」は、どこに、どのようにつくる想定ですか。越谷市の将来のためにも、子どもたちの自主性・創造性を育めるような環境の充実をお願いします。

(委員) 私は地区センターで子どもたちをよく見かけます。中には勉強をしている子も、遊び回って物を倒して直さないような子もいます。ゲーム禁止も、充電目的なのが問題で、それは自宅ですべきと教える大人が必要です。公共施設はマナーを伴います。地区センターでは大人が4～5人だけなので、とても無理です。児童館を増やすのが無理だとしても、身近で立ち寄りやすい、指導員や見守る大人が配置されているような居場所をつくることを計画に位置づけるべきだと思います。

(委員) 地域にいろいろな人がいて、何かあれば相談所や子育て支援課につながることになりますが、その前で受け止める人が大事だと思います。不登校の子どもの居場所がありません。是非、学校内に不登校児が通える居場所をつくって下さい。不登校児の親は不安でいっぱいですが、教育センターの相談は順番待ちで、教室の受け入れにも限りがあります。他の不登校向け教室は費用が高額でなかなか利用できません。学校の担任が対応するにも限界があります。不登校は最初のなりかけでの対応が大事です。不登校経験者の体験談を聞くと、不登校だった期間の学校での思い出が抜け落ちていることで、大人になってからもふとした会話の中で疎外感を覚えることがあると言います。不登校の子どもでも、学校内で過ごせる居場所を是非つくって下さい。

(委員) P46、234「貧困の状況にある子どもと家庭を支える」の指標について、「母子家庭等相談指導件数」で「年間1,100件程度の増加を目標」にすると、対象者が増えるのを期待しているようにも受け取れます。むしろ貧困状況にある子どもと家庭は、減らしていくべきはずです。減少を目標にするなど、表現を工夫できないでしょうか。

(事務局) 指標については、ご意見を頂いた箇所だけではなく、現在暫定値として入れてあるものについて、予算やコロナの影響等を鑑みて秋に最終調整を行う予定です。頂いたご意見を加味して、引き続き検討をさせていただきます。

(部会長) ご意見として踏まえて下さい。それでは2-3についてはいろいろなご意見を頂きましたので、次の項目に移りたいと思います。

4) 大項目2-4について

(部会長) それでは、2-4「障がい者(児)が安心して暮らせる環境をつくる」について、質

疑をお願いいたします。何かご意見はございますか。

(委員) 障がい者(児)の社会参画には、インクルーシブ教育の推進が鍵になると思います。大綱1の多様な人が交流するという流れとも合致します。ただ、大綱6では、P121の615に「特別支援学級設置率」を64.4%から90%に増やすという指標があり、多様な子どもを受け入れていくインクルーシブ教育の推進に対して、一貫性がないのが気になります。この場で審議すべき部分ではありませんが、計画全体に関わることとしてご検討ください。

(部会長) この場に教育分野の関係者は出席していないので、ご意見として持ち帰り、関係部門に伝えて下さい。

(委員) P48の達成指標について、「差別や偏見を感じている人の割合」を現状29.2%から0%にすると簡単に言いますが、現実は大変難しい。私は以前、重度心身障害児の施設にいましたが、理事会に集まる5市1町の首長は、会議に来て現場を見ようとはしませんでした。「1度見て知って下さい」とこちらから要望してようやくという状況でした。同じく福祉関係の部課長も案内しましたが、その時に「かわいそうだ」と必ず言います。全くわかっていない。この子は生まれたときから話せない、動けない、でも喜怒哀楽を感じながらこの状態を一生懸命生きている。何と比べているのか。そういう差別意識は誰もが持っています。いろいろな場面で理解を深めて、行政や教育機関などを含めて働きかけていかなければならないことだと思います。

(委員) 昔は障がい児を近所などでよく見かけましたが、今は施設の送迎があり、あまり出会わなくなりました。NPOのイベントに障がい児と地域の子どもと一緒に参加していると、初めは恐いと言っていた地域の子どもも、終わる頃には楽しい、恐くなかったと言います。大人になってからだと容姿にとらわれて偏見につながりやすいので、やはり子どもの頃からの日常的な触れ合いが大事だと思います。

(部会長) 他にご意見がなければ、次の項目に進みたいと思います。

5) 大項目2-5について

(部会長) それでは、2-5「高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる」について、質疑をお願いいたします。

(委員) 達成目標について、「認知症に関心がある人の割合」や「地域包括支援センターを知っている人の割合」が8割9割に増えたとしても、私は「越谷市は高齢者が暮らしやすいまちなのだ」と自慢することができません。めざす姿の文章の中に若者の視点が入っていないことも気になります。例えば、中学校での認知症サポーター養成講座を全校で実施するという目標であれば、「越谷市は子どもたちに向けて、高齢者が住みやすいまちづくりを目指している」と言える気がします。もっとふさわしい指標を検討して下さい。

(委員) 高齢化が進んで認知症や体力が衰えている人たちも増えていますが、私の病院には85歳以上でも通ってくる人たちがたくさんいます。医師会で在宅の患者さんへの支援もしていますが、内科の医師だけいれば良いという訳でなく、眼科医なども積極的に取り組まなければならないなと実感しています。

(委員) 高齢者が住み慣れた地域で最期までということは大事ですが、P55では特別養護老人ホームの床数を増やすという指標を掲げています。こちらを増やさないという指標の方が在宅医療重視の流れとのバランスがとれるのではないのでしょうか。

(委員) 私事ですが80歳になり、免許証更新時に認知症の検査を受けました。周囲も同世代で、検査の点数が低いと講習料が高くなるので、Aランクの点数を取ろうと必死でした。

(委員) コロナの自粛で外出しない高齢者が増えて、1日中会話がなかった人が久しぶりに来院されると、数ヶ月の間に明らかに認知機能の低下が進んでいるのを感じます。高齢

者の場合は、逆にある程度人と接触を持たないと認知症の進みが早いです。

(委員) 認知症を増やさないために、生きがいのある生活を持ってもらうことが大事です。趣味やボランティアなど、年齢に関係なくできる活動はあります。やはり、高齢者のための居場所も身近にいろいろとあることが必要だと思います。

(部会長) 他にございませんか。後で気付いたことがあれば発言頂いても結構ですし、後日メールなどで提出して頂ければと思います。

6) 大項目 2-6 について

(部会長) 2-6「市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る」についてご審議をお願いいたします。

(委員) P60の指標について、行政が「国民年金受給者数」を目標とするのに違和感があります。高齢化と寿命の延伸で年金受給者は必ず増えます。例えば、年金の過去の手続きがうまくいっていない人の手続きを支援するなどであれば大いに進めてほしいと思います。そういうことの積み重ねで受給者が増えるのであれば、この指標でも良いと思います。

(委員) 80歳まで継続まで働ける会社も出てきています。私もこの指標には疑問を感じます。働く意欲があれば働き続けられるという視点も入れれば良いと思います。

(部会長) そういう意見があったということで、説明は結構です。

(委員) 国民健康保険については越谷市発祥なので、市民の誇りとして、めざす姿の文章などに盛り込んでいただければと思います。

(事務局) 検討させていただきます。ありがとうございます。

(委員) 全体的に、現状値と目標値が年度であったり、累積であったり、指標によりいろいろあるのは当然ですが、個々の説明の中でわかりやすい表現を工夫してほしいと思います。

(部会長) 10年間の累積もありますか。

(事務局) こちらは前期5年間の計画ですので、指標の累積も令和3年度初頭から7年度末までの5年分となります。累計値には「累計」と書き加えたところですが、他の部会からも指摘されておりますので、よりわかりやすくなるよう表記を見直させていただきます。

(委員) クリニックをやっていて生活保護の方が増えていると感じますが、実際はどうですか。

(生活福祉課長) 生活保護受給者については3月末で3,340世帯、被保護者は4,374人となっています。前年度末と比べると世帯数は165世帯増で、毎年約100世帯前後増えています。100人あたりの保護受給者数から算出した保護率は、越谷市が1.27%、国は1.64%。埼玉県は1.33%で、全国や県を下回っていますが、毎年微増している状況です。

コロナの影響で増えているという話もありますが、大都市ほどの増加ではなく、今のところ越谷市は例年通りの推移だと認識しています。

(委員) 主な理由は何ですか。

(生活福祉課長) 病気で働けない、高齢者で年金だけでは生活できない、子ども世帯と別れて施設に入る際に受給するなどの例が増えています。

7) 全体を通して

(部会長) 他になければ、全体を通して何かあればご発言下さい。

(委員) P46の「公立保育所の建て替え施設数」が累計3施設とありますが、実際問題として、今、建て替えが必要な施設はどの位ありますか。3施設というのは、建て替えが決まっている施設の数ということですか。

(子ども育成課長) 公立保育所については、現在ある18施設のうち、昭和40年台からのもので、旧耐震基準で建てられた施設の中から特に優先すべきものを、今後5年間の建て替え対象

としています。

(委員) その3つ以外にも建て替えたほうが良い施設はありますか。

(子ども育成課長) 旧耐震基準の昭和56年以前の建物が12施設ありますので、そちらは順次建て替えや耐震化等を進める必要があります。越谷市公共施設等総合管理計画に定めた事業を、総合振興計画にも反映することとなります。

(部会長) 特にないようでしたら、今日の会議につきましては終了したいと思いますですが、よろしいでしょうか。

それでは、本日の議事は以上で終了させていただきます。

次回は、当部会の報告書について協議をしたいと思います。

本日の議事は以上でありますので、事務局にお返しいたします。

3 その他

事務局から次回、部会2回目の会議は8月27日(木曜)午後6時半から、同じく第1委員室で開催する旨説明。

4 閉会

出村副部会長より閉会のあいさつ

政策課星主任の司会により越谷市総合振興計画審議会福祉・健康部会第1回会議を閉会

以上

この会議録は、会議内容と相違ないことをここに認め署名する。

令和2年8月27日

越谷市総合振興計画審議会 福祉・健康部会

署名委員

白井 俊市
杉本 昭彦
近澤 恵美子